

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人看護学概論	1	15	1	2	教育主事 (実務経験:病院での成人看護)
到達目標					
ライフサイクルの中で、成人期にある人の身体的・心理的・社会的変化と、健康における現状と諸問題を理解し、成人看護の基本について理解する					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 成人看護の意義 1)ライフサイクルから見た成人期の位置づけ 成人期の区分と各発達段階と発達課題 2. 成人看護の対象の理解 1)障害発達の特徴 成人期 各期の特徴(身体・心理・社会的な特徴)		講義	・成人の生涯発達の特徴を心理・社会的な発達と身体的な発達がどのように関係しているのか考える。	
2	2)成人期の人々の生活・暮らし・人生(仕事・家族)		講義		
3	3. 成人期の生活と健康 1)成人をとりまく環境と生活状況 2)成人のライフスタイルの特徴 3)成人の健康の状況 生活習慣病		講義		
4	4. 成人期の健康維持増進・疾病予防にむけた看護の機能と役割 1)健康維持増進・生活習慣病対策等の保健・医療・福祉システムの概要 2)ヘルスプロモーションと看護		講義		
5	3)大人の健康行動 大人の学習 学習に基づく行動形成 生活習慣病の予防と健康教育		講義		
6	5. 成人の特性や能力に応じたアプローチ 1)セルフケア行動形成へのアプローチ		講義		
7	2)意思決定支援 3)危機状況にある対象へのアプローチ		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 成人看護学 成人看護学総論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅰ(急性期)	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護)
到達目標					
急性期にある成人期の対象に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 急性期にある対象と家族への看護 (身体的・心理的・社会的特徴、クリティカルケア、急性期患者の家族看護、危機理論) 2. 急性心筋梗塞の原因と障害の程度のアセスメントと看護		講義	・看護過程の展開 迅速な観察と適切な判断・対応について、解剖生理・病態生理、検査データと関連付けて学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ(循環器系)・病態学Ⅰ(循環器系)の解剖と機能 ・急性心筋梗塞、徐脈性不整脈の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅰ(血液造血器系)・病態学Ⅰ(血液造血器系)の血液成分と機能・造血・止血機構の解剖と機能、白血病の病態と症状 ・機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分	
2	3. 心筋梗塞の検査、治療を受ける患者への看護 (心電図、血管造影、心臓カテーテル、経皮的冠動脈形成術、冠動脈バイパス術等) 4. 心筋リハビリテーションについて		講義		
3	5. 病期や機能障害に応じた看護(虚血性心疾患) 6. 急性心筋梗塞患者事例による看護過程の展開 1)対象の状態のアセスメント 2)関連図、看護問題の抽出 3)関連図、看護問題の抽出、看護計画の立案		講義 グループワーク		
4			グループワーク		
5			講義 グループワーク		
6	7. 病期や機能障害に応じた看護(虚血性心疾患) 8. 急性心筋梗塞患者事例による看護過程の展開 ・まとめ		講義		
7	9. ペースメーカー治療を受ける患者の看護 1)病態生理、適応基準		講義		
8	2)ペースメーカー挿入が及ぼす影響		講義		
9	3)生活に及ぼす影響と合併症予防の看護		講義 グループワーク		
10	4)日常生活における留意点		講義		
11	10. 血液悪性疾患の病期や機能障害に応じた看護 1)白血病の原因と障害の程度のアセスメントと看護		講義		
12	2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 (1)骨髄穿刺、造血幹細胞移植		講義		
13	3)急性骨髄性白血病患者の看護		講義		
14	11. 熱傷の対象への看護 1)障害の程度のアセスメントと看護		講義		
15	2)一般的な治療・検査、看護:植皮術 3)合併症予防の看護		講義		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト	専門分野Ⅰ	基礎看護学4	臨床看護総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学1	成人看護学総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学 3	循環器	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学 12	皮膚	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学 4	血液・造血器	医学書院	

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅲ(回復期)	1	30	2	1	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
回復期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 成人回復期にある患者の特徴と看護の役割 (リハビリテーションの定義と看護の役割、機能障害と分類)		講義	担当:院内講師 【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の回復期・リハビリテーション期の学習をする。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴ・病態学Ⅲの脳神経系の解剖と機能、脳卒中、脳腫瘍の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 ・事例から看護上の問題点を抽出し、看護計画を立案する。 45分 担当:教員 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱ(筋骨格器系)、病態学Ⅲ(運動器系)の筋骨格器系の解剖と機能、椎間板ヘルニア、脊髄損傷の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分	
2	2. くも膜下出血患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 血管内治療、脳室ドレナージ、開頭術 等		講義		
3	3)合併症、二次障害の予防と回復の促進に向けた看護		グループワーク		
4			グループワーク 発表		
5	4. 脳腫瘍患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 放射線療法、ガンマナイフ治療、手術療法 等		講義		
6	5. 脳梗塞患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 画像検査、rt-PA 等		講義		
7	6. 病期や機能障害に応じた看護 1)脳梗塞患者事例による看護過程の展開 ・機能障害(意識障害、運動麻痺、言語障害等)に応じた看護		グループワーク		
8			グループワーク 発表		
9	7. 障害の受容過程と援助 ・言語障害をもつ対象とのコミュニケーションと援助 ・日常生活行動の再獲得を支援する援助		講義		
10	成人期にある脳神経系疾患患者の回復期看護のまとめ		講義		
11	8. 椎間板ヘルニア患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 脊髄造影・椎間板造影 等		講義		
12	3)牽引を受ける患者の看護 4)手術療法を受ける患者の看護		講義		
13	5)回復期にある患者とその家族に対する身体的、精神的援助		グループワーク		
14	9. 脊髄損傷患者の看護(外傷に伴う脊髄疾患) 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護		講義 グループワーク		
15	3)障害の受容過程と援助		グループワーク 講義		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト	専門分野Ⅰ	基礎看護学4	臨床看護総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学1	成人看護学総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学7	脳・神経	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学10	運動器	医学書院	

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅳ(慢性期)	1	30	2	2	教員 (実務経験:病院での成人看護) 院内講師(看護師)
到達目標					
慢性期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 慢性期の特徴、慢性期患者の理解 1)糖尿病の原因と障害の程度のアセスメントと看護		講義	担当:教員 【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の慢性期について学習する。 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅴ、病態学Ⅳの内分泌系の解剖と機能、糖尿病と甲状腺機能亢進症の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療を学習する。 45分 担当:院内講師 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ、Ⅳ、病態学Ⅰ、Ⅱの呼吸器系と腎臓系、免疫系の解剖と機能、腎不全、慢性閉塞性肺疾患、AIDSの病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 担当:院内講師 45分	
2	2)糖尿病の病態と症状の関連性、生活への影響		講義 グループワーク		
3	2. 成人慢性期の患者とその家族に対する身体的、精神的援助		講義		
4	3. 糖尿病治療を受ける患者への看護 1)食事療法・運動療法・薬物療法(糖尿病経口薬)		講義		
5	2)インスリン補充療法(皮下注射)の指導		講義 演習		
6	4. 検査・処置を受ける患者への看護 ・簡易式血糖自己測定(SMBG)		講義 演習		
7	5. 病期や機能障害に応じた看護 1)糖尿病をもつ成人期の対象への生活指導の実際 ・コンプライアンスを高めるための援助		グループワーク		
8	2)セルフケア確立に向けた教育・指導 ・糖尿病をもつ成人期の対象への生活指導の実際		演習		
9	6. 甲状腺機能亢進症患者の看護 1)原因と障害の程度のアセスメント 2)検査・処置、治療を受ける患者への看護 (1)ホルモン血中・尿中濃度測定、甲状腺切除術 等		講義		
10	(2)生活上の留意点		講義		
11	7. 医療機器と共に生活しなければならない対象の看護 1)腎不全患者の看護 ・透析		講義		
12	8. 透析導入をする腎不全患者への看護		グループワーク		
13	9. 医療機器と共に生活しなければならない対象の看護 1)慢性閉塞性肺疾患患者 ・在宅酸素療法、呼吸管理、NPPV		講義		
14	10. 死の潜在的恐怖と共に生活する対象の看護 ・AIDS患者の看護		講義		
15	11. 治療を受ける患者への看護 ・抗ヒト免疫不全ウイルス(HIV)療法		講義		
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト	専門分野Ⅰ	基礎看護学4	臨床看護総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学1	成人看護学総論	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学2	呼吸器	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学8	腎・泌尿器	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学6	内分泌 代謝	医学書院	
	専門分野Ⅱ	成人看護学11	アレルギー 膠原病 感染症	医学書院	

専門分野Ⅱ：「成人看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
成人臨床看護Ⅴ(終末期)	1	30	2	2	院内講師(看護師)
到達目標					
終末期にある成人期の対象と家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、発達段階・経過に応じた看護を理解する					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 終末期の特徴、終末期患者の理解 1)緩和ケアを必要とする患者への看護 ・肝臓癌・肝硬変の患者の看護	講義	担当: 院内講師 【事前学習】 ・臨床看護技術Ⅰ(経過)の終末期の学習をする。 45分 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅱの消化器系の解剖と機能、肝硬変、肝臓癌の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 ・死を迎えつつある対象への看護師としての姿勢について考える。 担当: 院内講師 【事前学習】 ・解剖生理学Ⅲ(呼吸器)の呼吸器の解剖と機能、肺癌の病態と症状、機能障害のメカニズム、検査、治療について学習する。 45分		
2	2. 肝臓がん・肝硬変の検査治療を受ける患者の看護 ・検査(超音波検査、CT)・治療(静脈瘤硬化療法、TAE)と看護	講義			
3	3. 症状アセスメントとマネジメント ・腹水、浮腫のある患者への看護 ・黄疸のある患者への看護 ・肝性昏睡のある患者の看護	グループワーク			
4		グループワーク			
5		グループワーク発表			
6	4. エンド・オブ・ライフ・ケア 1)全人的苦痛のアセスメントとマネジメント 2)苦痛緩和と意思決定支援	講義			
7	5. 終末期にある患者の看護 1)アドバンスケアプランニング 2)予期的悲嘆に対するアセスメントとケア	講義			
8	6. 成人期にある対象の全人的苦痛の緩和への援助 1)身体的苦痛:がん性疼痛(身体的ケア)	講義			
9	2)症状マネジメント	講義			
10	7. 死に対する患者家族の悲嘆への援助 1)予期悲嘆、デス・エデュケーション、グリーフケア(精神的ケア)	講義			
11	8. がん患者の抱える苦痛(肺がん) 1)転移・浸潤による身体的・心理的苦痛 2)慢性呼吸不全	講義			
12	9. 症状アセスメントとマネジメント(肺がん・呼吸不全) 1)慢性呼吸不全のある患者への看護	講義			
13	10. 緩和ケアを必要とする患者と家族への看護	講義			
14	11. 肺がんで慢性呼吸不全のある患者への看護の実際 ・全人的苦痛のアセスメントとマネジメント	グループワーク			
15		グループワーク発表			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト	専門分野Ⅰ 基礎看護学4 専門分野Ⅱ 成人看護学1 専門分野Ⅱ 成人看護学2 専門分野Ⅱ 成人看護学5	臨床看護総論 成人看護学総論 呼吸器 消化器	医学書院 医学書院 医学書院 医学書院		

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験: 病院での老年看護)
到達目標					
ライフサイクルの中で老年期にある人の身体的・心理的・社会的変化と高齢者の看護の基本について理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 老年期の対象 1) 高齢者の定義 2) 「老いのイメージ」 2. 加齢と老化 1) 加齢・老化の概念		講義	【事後学習】 ・老年期にある対象の3側面の特徴を整理する。 ・老人福祉センターのサークル活動に参加し、老年期の方と共に過ごす体験をする。 ・体験したことを老年期の特徴や発達課題と結びつけながら「老い」を考える。	
2	2. 加齢と老化 1) 加齢に伴う身体的側面の変化 2) 加齢に伴う心理的側面の変化 3) 加齢に伴う社会的側面の変化		講義		
3	3. 高齢者の発達と成熟 1) 老年期の発達課題 4. 高齢者の健康 1) 高齢者の健康の特徴 2) 生理的老化と病的老化 3) 高齢者の疾病の特徴 4) フレイル・サルコペニア		講義		
4	5. 老年看護の対象: 老人福祉センター 演習		演習		
5	6. わたしたちの高齢者観		グループワーク 発表		
6	7. 老年看護の倫理 1) 高齢者の権利擁護(アドボカシー) 2) 高齢者の人権に関する制度 3) 高齢者虐待 4) 安全確保と身体拘束 5) 高齢者の意思決定への支援(アドバンスケアプランニング) 6) 終末期における生き方や死の迎え方の意向		講義		
7	8. 老年看護の特徴		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年保健	1	30	2	1	教員 (実務経験: 病院での老年看護)
到達目標					
老年保健における統計、施策について学び、高齢者を取り巻く社会制度について理解できる 高齢者の生活を支える看護が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 高齢社会と社会保障 1) 超高齢社会の統計的輪郭	講義	45分 【事前学習】 ・基本看護技術、生活援助技術で学んだ基礎看護技術を学習する。		
2	1. 高齢社会と社会保障 2) 高齢社会における保健医療福祉の動向 (1) 保健医療福祉制度の変遷 (2) 高齢者医療のしくみ ① 介護保険制度 ② 高齢者を支える多職種連携(チームアプローチ)	講義			
3	2. 高齢者疑似体験	演習 グループワーク			
4					
5	高齢者体験から学んだこと ・疑似体験したことで高齢者に対する認識の変化 ・高齢者の日常生活援助における環境調整や生活の工夫	グループワーク 発表			
6	3. 高齢者の生活を支える看護(ヘルスアセスメント) 1) 高齢者の運動機能の変化 2) 高齢者の機能と評価 3) 高齢者の日常生活動作のアセスメント	講義			
7	4. 高齢者の生活を支える看護(コミュニケーション) 1) 加齢に伴う視聴覚機能の変化 2) コミュニケーションを促す要素と阻害要因 3) 高齢者とのコミュニケーション方法	講義			
8	5. 高齢者の生活を支える看護(生活リズム) 1) 高齢者の生活リズムを調整する意義 2) 加齢による睡眠の特徴と睡眠障害の要因 3) 睡眠障害のアセスメント 4) 睡眠障害を有する高齢者への援助	講義			
9	6. 高齢者の生活を支える看護(廃用症候群) 1) 加齢に伴う廃用症候群の病態と要因 2) 廃用症候群のためのアセスメント 3) 廃用症候群の予防に向けた援助	講義			
10	7. 高齢者の生活を支える看護(転倒・転落) 1) 加齢に伴う転倒・転落の要因 2) 転倒・転落リスクアセスメント 3) 転倒・転落予防に向けた援助	講義			
11	8. 高齢者の生活を支える看護(食事・食生活) 1) 高齢者における食事の意義 2) 食事に関する高齢者に特徴的な変調 3) 食生活のアセスメント 4) 高齢者の嚥下能力・嗜好性・環境に応じた食生活への援助 5) 義歯の取り扱い	講義			
12	9. 高齢者の生活を支える看護(排泄) 1) 高齢者の排泄ケアの基本 2) 加齢に伴う排泄機能(排尿)の変化 3) 排尿・排便に関するアセスメント 4) 高齢者の排尿・排便障害 5) 排泄能力に応じた援助	講義			
13	10. 高齢者の生活を支える看護(清潔・衣生活) 1) 高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題(皮膚障害・セルフケア能力の変化) 2) 清潔のアセスメント 3) 負担に応じた清潔・衣生活の援助	講義			
14	11. 高齢者の生活を支える看護(セクシュアリティ) 1) 高齢者のセクシュアリティ 2) 性機能の加齢性変化 3) セクシュアリティのアセスメントと看護 12. 高齢者の生活を支える看護(社会参加) 1) 社会参加の意義 2) 地域における高齢者の社会参加	講義			
15	13. エンド・オブ・ライフ・ケア 1) エンド・オブ・ライフ・ケアの概念 2) 身体徴候のアセスメントと看護 3) 苦痛緩和と安楽、精神的苦痛や混乱に対する援助 4) 末期段階に求められる援助 5) グリーフケア	講義			
16	終講試験			45分	
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
老年臨床看護	1	30	2	1	石川 雅裕 院内講師(看護師)
到達目標					
健康障害をもつ高齢者とその家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 高齢者の疾患の特徴(認知症) 1)認知症の概念 2)認知症の症状(認知機能障害・BPSD) 3)診断に必要な検査	講義	担当:石川 雅裕 担当:院内講師 45分 45分		
2	4)4大認知症 (1)認知症の治療	講義			
3	2. 高齢者の疾患の特徴(パーキンソン病) 1)パーキンソン病の症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
4	3. 高齢者にみられる神経難病(筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症) 1)症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
5	4. 高齢者にみられる神経難病(重症筋無力症・多発性硬化症) 1)重症筋無力症・多発性硬化症の症状 2)診断に必要な検査 3)治療	講義			
6	5. 症候のアセスメントと看護 1)発熱 2)痛み 3)掻痒 4)脱水 5)嘔吐 6)浮腫 7)倦怠感 (1)加齢による病態と要因 (2)症状に対する看護 (3)生活への影響のアセスメント (4)予防・治療と援助	講義			
7		講義			
8	せん妄・うつ状態にある高齢者の看護 1)加齢による疾患の特徴と要因 2)生活への影響のアセスメント 3)治療と援助	講義			
9	6. 検査・治療を受ける高齢者の看護 1)検査を受ける高齢者の看護	講義			
10	7. 治療を受ける高齢者の看護 2)薬物療法を受ける高齢者の看護 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)服薬管理能力のアセスメントと看護	講義			
11	8. 高齢者における疾患の看護(認知症) 1)認知症高齢者とのコミュニケーション方法と療養環境の整備	講義			
12	2)急性期一般病床での援助 3)家族への支援とサポートシステム	講義			
13	認知症患者の看護	DVD			
14	9. 高齢者における疾患の看護(パーキンソン病)	講義			
15	9. 高齢者における疾患の看護(パーキンソン病) 1)パーキンソン症状と生活への影響とアセスメント 2)症状コントロールに向けた援助	グループ ワーク			
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 老年看護学 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経		医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「老年看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
老年看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験：病院での老年看護)	
到達目標						
老年看護学概論、老年保健、老年臨床看護で学んだ知識を統合し、生活機能の観点からアセスメントし、健康のレベルに応じた高齢者への援助方法が理解できる						
時	授業内容		方法	備考		
1	1. 大腿骨頸部骨折の要因と身体的影響 1)加齢による疾患の特徴と要因 2. 大腿骨頸部骨折の治療と看護(牽引療法・手術療法)		講義	【事前学習】 ・老年看護学概論の加齢に伴う3側面の変化について学習する ・病態学Ⅲ大腿骨頸部骨折の病態・治療について学習する。 ・成人臨床看護Ⅱの術前・術中・術後の看護についてを学習する。 【事前学習】 ・老年保健のエンド・オブ・ライフ・ケアについて学習する。 ・高齢者の意思決定支援について学習する。		
2	3. 大腿骨頸部骨折を起こした高齢者の事例展開 1)直達牽引療法を受けている高齢者の情報収集とアセスメント		グループワーク			
3	2)直達牽引療法を受けている高齢者の看護		グループワーク			
4	3)手術療法を受ける高齢者の看護 (1)入院時の看護 (2)外来診療時の看護 (3)検査時の看護 (4)手術療法時の看護		講義			
5	4)術後の高齢者の看護		グループワーク			
6	5)回復を促進するための看護 (1)生活の再構築に向けた援助 (2)転倒・転落の予防		グループワーク			
7	6)回復を促進するための看護の実際・評価		演習			
8	4. エンド・オブ・ライフ・ケア 1)身体徴候とアセスメントと援助 2)身体的苦痛の緩和と安楽への援助 3)精神的苦痛や混乱に対する援助 4)臨死期の評価と援助 5)家族看護		講義			
9	5. エンド・オブ・ライフ・ケアの実際		講義			
10	1)高齢者の尊厳を守る支援 事例検討：高齢者の意思決定支援		グループワーク			
11	6. 高齢者と医療安全 1)高齢者と医療事故 2)熱傷 3)チューブ類の事故		講義			
12	4)皮膚損傷 同一体位・ずれの体験、体圧測定、ポジショニングの実際		講義 演習			
13	7. 高齢者の個別の日常生活能力、目標に合わせた援助		講義 グループワーク			45分
14	1)呼吸困難がある高齢者の看護					
15	2)高齢者への生活指導					
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(100点)				
テキスト		専門分野Ⅱ 老年看護学 臨床外科看護総論 高齢者と成人の周手術期看護2		医学書院 医学書院 医歯薬出版		

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児看護学概論	1	15	2	1	教員 (実務経験:病院での小児看護)
到達目標					
小児期の成長・発達について学び、小児各期における身体的・心理的・社会的特徴を理解することができる。小児に関する統計・諸問題について理解することができる。					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 小児看護の特徴と理念 1)小児看護の目ざすところ 2)小児看護の変遷		講義 グループワーク	・グループワーク 「子ども」のイメージについて	
2	3)小児と家族の諸統計 4)小児看護における倫理 5)小児看護の課題		講義 グループワーク	【事前学習】 ・新聞等から子どもの医療事故について情報を集める。	
3	2. 子どもの成長・発達 1)成長・発達とは 2)成長発達の進み方 3)成長発達に影響する因子 4)成長・発達の評価		講義	【事前学習】 ・母子手帳を活用し、自身の小児期の成長・発達状況について振り返る。	
4	3. 子どもの栄養 1)子どもにとっての栄養の意義 2)子どもと食育 3)食事摂取基準 4)発達段階別子どもの栄養と看護		講義		
5	4. 新生児・乳児の形態的・身体生理の特徴、養護および看護		講義		
6	5. 幼児・学童の形態的・身体生理の特徴、養護および看護 6. 思春期・青年期の形態的・身体生理の特徴、養護および看護		講義		
7	7. 子どもと家族を取り巻く社会 1)小児を取り巻く法律と政策 2)児童福祉 3)子どもの虐待 4)いじめ・校内暴力の防止		講義	【事前学習】 ・それぞれの都道府県において、子どものための施設にはどのようなものがあるか調べる。	
8	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児保健	1	30	2	1	教員 (実務経験：病院での小児看護)
到達目標					
人間のライフサイクルにおける小児期をとらえ、小児を取り巻く社会状況や家族の重要性を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 家族の特徴とアセスメント 1)子どもにとっての家族とは 2)家族アセスメント	講義	【事前学習】 ・自分にとっての家族について考えるをまとめる。		
2	2. 子どもと家族を取り巻く社会 1)医療費の支援 2)予防接種 3)学校保健 4)特別支援教育	講義 グループワーク	【事前学習】 ・母子手帳から自身の予防接種状況を確認する。 ・HP等を活用し、地域における母子保健事業、予防接種制度について調べる。 ・学校保健統計調査の結果から、我が国の子どもの健康問題について情報を収集する。		
3		グループワーク			
4		発表 講義			
5	3. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 1)病気・障害が子どもと家族に与える影響 2)健康問題をもつ子どもと家族の看護 3)生活制限のある子どもと家族の看護	講義 DVD レポート			
6					
7					
8	4. こどもの状況(環境)に特徴づけられる看護 1)外来における子どもと家族の看護 2)入院中の子どもと家族の看護 (1)入院環境 (2)入院における子どもと家族への影響 (3)子どもと家族の看護 3)在宅療養を行う子どもと家族の看護	講義			
9					
10	5. 症状を示す子どもの看護 1)機嫌・啼泣 2)痛み 3)呼吸困難 4)発熱 5)嘔吐・下痢・便秘 6)脱水・浮腫 7)出血 8)けいれん	講義 グループワーク 発表			
11					
12					
13					
14	6. 障害のある子どもと家族の看護 1)障害のとらえ方 2)障害のある子どもと家族の特徴 3)障害のある子どもと家族の社会的支援	講義 DVD	45分		
15					
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験 (100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
小児臨床看護	1	30	2	1.2	院内講師(医師) 院内講師(看護師)
到達目標					
健康を障害された小児とその家族に対する看護実践のための基礎的知識・技術を学び、対象への看護を理解することができる。					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 小児期に特徴的な疾患の病態・症状・診断・治療 ・子どものみかた、主な主要症状とその対処法	講義	担当講師：院内講師 【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の小児期の各発達段階における生理機能(体温・呼吸・循環・栄養・免疫など)の特徴と看護について学習をする。 【事前学習】 担当講師：院内講師 【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の成長曲線について学習をする。 ・小児保健の疾患や治療が小児や家族に与える影響について学習をする。 45分 45分		
2	1)先天異常：ダウン症候群 2)新生児医療	講義			
3	3)呼吸器疾患：肺炎、気管支炎 4)循環器疾患：ファロー四徴症、川崎病	講義			
4	5)消化器疾患：急性胃腸炎 6)血液・腫瘍疾患：白血病	講義			
5	7)腎・泌尿器疾患・生殖器疾患：ネフローゼ症候群 8)成長に関して	講義			
6	9)免疫・アレルギー疾患：気管支喘息 10)神経疾患：熱性けいれん	講義			
7	11)感染症 12)予防接種	講義			
8	2. 子どもにおける疾患の経過と看護 1)周手術時にある子どもと家族の看護 (1)ファロー四徴症	講義			
9	2)急性期にある子どもと家族の看護 (1)肺炎 (2)けいれん (3)感染症	講義			
10					
11					
12					
13	3)慢性期にある子どもと家族の看護 (1)Ⅰ型糖尿病 (2)ネフローゼ症候群	講義			
14	4)終末期にある子どもの看護 (1)白血病	講義			
15					
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「小児看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名	
小児看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師) 院外講師 教員 (実務経験:病院での小児看護)	
到達目標						
小児の健康な成長発達を促進するための養護について理解することができる。 小児看護学概論、小児保健、小児臨床看護で学んだ知識を統合し、健康レベルに応じた小児の援助方法を理解することができる。						
時	授業内容	方法	備考			
1	1. 子どものアセスメント 1)アセスメントに必要な技術：身体的アセスメント 2)子どもの養護	講義 グループ ワーク	担当:教員 【事前学習】 ・小児看護学概論、小児保健の成長曲線について学習をする。 ・小児看護学概論、小児保健の小児期各期における遊びの特徴について学習をする。 【事前学習】 ・小児臨床看護での「呼吸器疾患」「急性期における子どもと家族の看護」について復習をする。 45分 担当:院内講師 【事前学習】 ・NICU(新生児集中治療室)の役割と特徴について調べる。 担当:院外講師 担当:教員 45分			
2						
3	2. 検査・処置を受ける小児の看護 1)検査・処置総論 2)薬物動態と薬用量の決定 3)検査・処置各論 (1)与薬 (2)輸液管理、抑制 (3)検体採取(採血・採尿・骨髄穿刺・腰椎穿刺) (4)経管栄養、浣腸 (5)吸引・酸素療法・吸入 4)プレパレーション	講義				
4		グループ ワーク				
5		グループ ワーク 発表				
6	3. 看護技術 観察、身体測定、バイタルサイン測定	演習				
7	4. 健康障害を持つ子どもの看護過程の展開 気管支喘息の子ども(幼児期)と家族の看護 1)急性期発作時への対応 2)薬物療法時の看護 3)長期的管理における看護(指導・教育)	グループ ワーク 発表				
8						
9		講義				
10						
11	5. 低出生体重児の看護 (新生児集中治療室における看護) 1)低出生体重児の特徴 2)低出生体重児の看護の実際	講義				
12						
13	6. 障害のある子どもの看護 1)重症心身障害児(者)の歴史 2)重症心身障害児(者)の特徴 3)重症心身障害児(者)看護の実際 (1)障害の程度に応じた日常生活援助の実際 (2)成長発達の促進、QOLの向上、 筋萎縮予防のための療育の実際	講義				担当:院外講師
14						
15	まとめ	講義				担当:教員
16	終講試験					45分
評価方法		筆記試験(100点)				
テキスト		専門分野Ⅱ 小児看護学 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 専門分野Ⅱ 小児看護学 小児臨床看護各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学概論	1	15	2	1	新宮 美紀
到達目標					
母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象と役割を理解できる 女性のライフステージ各期における看護を理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 母性看護の基盤となる概念 1)母性とは		講義	【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。 【事後学習】 ・女性のライフステージ各期における特徴と健康課題・看護について理解しまとめる。	
2	2)母子関係と家族発達 3)セクシュアリティ、 4)リプロダクティブヘルス・ライツ 5)ヘルスプロモーション		講義		
3	2. 母性看護のあり方と倫理 1)母性看護のあり方 2)母性看護における倫理		講義		
4	3. 母性看護の対象理解 1)女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2)女性のライフサイクルと家族 3)母性の発達・成熟・継承		講義		
5	4. 女性のライフステージ各期における看護 ・思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康課題と看護		グループワーク		
6					
7	5. リプロダクティブヘルスケア 1)家族計画、性感染症とその予防 2)人工妊娠中絶と看護、不妊治療と看護		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性保健	1	30	2	1	東野 直美 教員 (実務経験:病院での母性看護)
到達目標					
母性保健における統計・施策、母性を取り巻く社会制度について理解できる 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の生理的変化を学び、各期における看護を理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 母性看護の対象をとりまく社会の変遷と現状		講義 グループ ワーク	担当:教員	
2	2. 母子保健統計		講義 グループ ワーク		
3	3. 母性看護に関する主な法律		講義		
4	4. 母子保健施策		講義		
5	5. 正常な妊娠の経過 1)妊娠期の定義 2)妊娠の成立 3)妊娠の経過と胎児の発育 4)母体の生理的変化		講義	45分 担当:東野 直美 解剖生理学・母性概論 各論のテキスト持参	
6	5)母体の心理・社会的変化 6)妊婦・胎児の健康と生活のアセスメント 7)妊婦健康診査、産科的診断法		講義	グループワーク準備物 ハサミ準備物:模造紙、ポスト イット、油性ペン	
7	6. 妊娠経過と妊婦・胎児の健康生活のアセスメント ・妊娠経過と妊婦と家族への看護の関連		グループ ワーク		
8			発表 演習 講義		
9	7. 妊婦と家族への看護 1)健康維持・セルフケアに関する保健指導 2)妊娠による不快症状とその看護、出産への準備教育		講義	分娩経過についてのWS 穴埋め課題	
10	8. 正常な分娩の経過 1)分娩期の定義 2)分娩の3要素 3)分娩の経過		講義	胎児と骨盤模型	
11	9. 産婦・胎児の健康状態のアセスメント		講義	モニター波形モデル	
12	10. 産婦と家族への看護 1)産婦のニーズの充足 2)産痛緩和と分娩進行促進の看護		講義		
13	11. 正常な産褥の経過 1)産褥期の定義 2)産褥期の身体的特徴 3)産婦と家族の心理・社会的変化		講義		
14	12. 産婦の健康と生活のアセスメント 1)退行性変化・進行性変化 2)セルフケア行動 3)産婦と家族の心理・社会的状態のアセスメント		講義		
15	13. 産婦と家族への看護 1)産褥復古に関する支援 2)母乳育児への支援、 3)日常生活とセルフケアへの支援 4)育児技術獲得への支援、家族の再調整		講義 演習		
16	終講試験			45分	
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性臨床看護	1	30	2	1・2	院内講師(医師) 教員
到達目標					
妊娠、分娩、産褥および新生児期の異常について理解できる 生理的变化から逸脱した対象や家族への看護について理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の異常 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠期の感染症 3) 妊娠悪阻 4) 妊娠貧血	講義	担当: 院内講師(医師) 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。 担当: 教員 【事前学習】 ・テキストを読み、講義に臨む。 45分 【事後学習】 ・各疾患において、病態・検査・治療・処置・看護についてまとめる。 45分		
2	5) 妊娠高血圧症候群 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤	講義			
3	3. 分娩期の異常 1) 産道の異常 2) 娩出力の異常 3) 胎児・胎児付属物の異常 4) 胎児機能不全	講義			
4	5) 分娩時の損傷 6) 分娩時異常出血 7) 産科処置 8) 帝王切開術 9) 死産	講義			
5	4. 産褥期の異常 1) 帝王切開術後 2) 子宮復古不全 3) 産褥熱 4) 乳腺炎 5) 産後精神障害	講義			
6	5. 新生児の異常① 1) 先天性異常 2) 早産児 3) 低出生体重児 4) 新生児一過性多呼吸 5) 呼吸窮迫症候群	講義			
7	6) 胎便吸引症候群 7) 高ビリルビン血症 8) 新生児ビタミンK欠乏症 9) 低血糖症	講義			
8	6. 妊娠期の健康問題に対する妊婦と家族への看護 1) 不育症・流産・早産 2) 妊娠悪阻 3) 妊娠高血圧症候群 4) 前置胎盤	講義			
9	5) 双胎妊娠 6) 妊娠糖尿病 7) 常位胎盤早期剥離前置胎盤	講義			
10	8) 若年妊婦・高年妊婦への看護 7. 分娩期の健康問題に対する産婦と家族への看護 1) 前期破水 2) 分娩時異常出血 3) 陣痛異常	講義			
11	4) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦への看護 5) 帝王切開術を受ける産婦の看護	講義			
12	8. 産褥期の健康問題に対する産婦・家族への看護 1) 子宮復古不全 2) 産褥熱 3) 乳腺炎 4) 産褥精神障害 5) 尿路感染・排尿障害	講義			
13	6) 帝王切開術を受けた産婦の看護 9. 新生児の健康問題に対する新生児と家族への看護 1) 先天異常 2) 早産児、低出生体重児	講義			
14	3) 新生児一過性多呼吸 4) 呼吸窮迫症候群 5) 胎便吸引症候群 6) 高ビリルビン血症 7) 新生児ビタミンK欠乏症 8) 低血糖症	講義			
15	10. 健康上の問題がある児の親・家族への看護 1) 蘇生・処置を受ける児 2) 手術療法を受ける児 3) 死産 4) 障害児	講義 演習			
16	終講試験	講義			
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院				

専門分野Ⅱ：「母性看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
母性看護学演習	1	30	2	2	教員 (実務経験：病院での母性看護)
到達目標					
母性看護学概論、母性保健、母性臨床看護での学習を統合し、妊産褥婦と新生児およびその家族の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得することができる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 母性看護に必要な看護技術 1)母性看護における看護過程 2)情報収集・アセスメント技術 3)母性看護に使われる看護技術 (1)健康教育 (2)保健指導	講義	【事前学習】 ・母性看護学概論で学習した母性看護の対象理解について学習する。 ・ウェルネス思考とはどのような考え方が調べる。 ・母性保健の正常な妊娠・分娩・産褥経過について学習する。 事例による看護の展開 事例を用いて、妊娠期、産褥期、新生児期の看護過程を展開する。ウェルネス志向にて対象の健康課題をとらえる。 45分 【事前学習】 新生児の看護技術について、手順や根拠を理解する。 【事後学習】 根拠を理解したうえで、技術練習に取り組む。		
2	2. 妊婦の看護過程 1)妊娠期の健康状態のアセスメント	講義 グループワーク			
3	2)妊婦の健康診査と看護 (1)産科的診断法 レオポルド触診法、児心音聴取、ノンストレステスト、子宮底測定	講義 演習			
4	3)妊娠期の保健指導	講義 演習			
5	3. 分娩期の看護 1)分娩各期の経過と産婦のアセスメント 2)胎児の健康状態のアセスメント	講義 DVD			
6	3)産婦と家族への看護 (1)基本的ニードへの援助 (2)産痛緩和と分娩進行促進の援助	講義 グループワーク			
7	4. 褥婦の看護過程 1)褥婦の健康状態のアセスメント	講義			
8	2)褥婦の心理・社会的変化のアセスメント	講義			
9	3)褥婦への看護 (1)身体機能の回復・退行性変化に対する援助 (2)進行性変化への援助	講義 グループワーク			
10	(3)母乳育児への支援 (4)育児技術獲得への支援	DVD 演習			
11	5. 新生児の看護過程 1)新生児の健康状態のアセスメント	講義			
12	2)新生児への看護	講義 グループワーク			
13	3)新生児への看護技術	講義			
14	6. 新生児の看護の実際 1)バイタルサイン測定 2)身体計測 3)抱き方・寝かせ方 4)オムツ交換 5)沐浴・臍処置 6)更衣	演習			
15					
16	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院			

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神看護学概論	1	15	1	2	教員 (実務経験:病院での看護)
到達目標					
精神看護の基本概念を学び、看護の対象・目的・機能を理解し、看護の役割が理解できる					
時	授業内容		方法	備考	
1	1. 精神看護の概念 1)「心のケア」と現代社会 精神科医療の現状 2)精神の健康とは 3)精神障害のとらえ方		講義	【事前学習】 ・心理学・人間関係論で学習した人間の心のはたらきについて復習する。 【事前学習】 ・ライフステージごとに心理的特徴と生じやすい問題についてまとめる。	
2	2. 「人間の心の諸活動」		講義		
3	3. 「心のしくみと人格の発達」		講義		
4	4. 関係のなかの人間 1)全体としての家族		講義		
5	2)人間と集団		講義		
6	5. リエゾン精神看護		講義		
7	6. 看護師のメンタルヘルス		講義		
8	終講試験				
評価方法		筆記試験(100点)			
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神保健	1	30	2	1	院内講師(医師) 院内講師
到達目標					
精神保健における施策について学び、精神の健康を取り巻く社会制度について理解できる 社会における心の健康とそれらに影響を与える要因を理解し、健全な精神発達への援助が理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 精神保健とは 1)精神保健の概念	講義	担当：院内講師 【事前学習】 ・法制度についてまとめる。 ・ディケア・外来・社会復帰施設・共同作業所・グループホームについて目的・役割をまとめる。 担当：院内講師 【事後学習】 ・精神障害をもつ対象の倫理について考える。		
2	2. 精神保健福祉の歴史	講義			
3					
4	3. 諸外国における精神保健福祉 (我が国、イタリアとの比較)	講義			
5	4. 精神障害と法制度 1)精神保健福祉法(入院形態) 2)障害者支援 3)社会資源(授産施設、就労支援他)	講義			
6	5. 精神保健福祉活動 1)社会資源(SHG、就労支援他)	講義			
7	6. 精神障害の一次予防、二次予防、三次予防	講義			
8	7. 地域移行支援・地域生活支援 1)長期入院者 地域移行支援	グループワーク			
9		発表			
10	8. 最近の精神医療の動向 正常と異常 1)京都の精神医療史	講義			
11	9. 貧困と精神保健福祉	講義			
12	10. 障害者虐待と精神保健福祉	講義			
13	11. 物質依存と精神保健福祉	講義			
14	12. ジェンダーと精神保健福祉 1)性同一性障害	講義			
15	13. 心的外傷後ストレス障害と精神保健福祉	講義			
16	終講試験				
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 別巻	精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 精神保健福祉	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名
精神臨床看護	1	30	2	1.2	院内講師(医師) 院内講師(看護師)
到達目標					
精神疾患および精神障害について理解できる 精神障害をもつ対象と家族について理解できる 精神障害をもつ対象と家族への看護について理解できる					
時	授業内容	方法	備考		
1	1. 精神疾患と障害の理解 1)精神症状論と状態像	講義	担当: 院内講師 【事前・事後学習】 ・症状についてまとめる。 (陰性症状・陽性症状: 幻覚妄想・無為・精神遅滞せん妄・自閉・昏迷・拒絶意欲低下・興奮・強迫観念感覚鈍麻) ・薬物療法の作用・副作用をまとめる。		
2	2. 精神障害の診断と分類① 1)統合失調症について	講義			
3	3. 精神障害の診断と分類② 1)気分障害について	講義			
4	4. 精神障害の診断と分類③ 1)ストレス障害 摂食障害	講義			
5	5. 精神障害の診断と分類④ 1)認知症、器質的精神障害	講義			
6	6. 精神障害の診断と分類⑤ 1)発達障害 てんかん	講義			
7	7. 精神科での治療 1)薬物療法、電気けいれん療法、精神療法 等	講義			
8	8. 入院治療と看護① 1)治療と回復 2)回復を助ける 3)回復を支えるさまざまなプログラム (社会生活技能訓練)	講義	担当: 院内講師 【事前学習】 ・社会生活技能訓練、心理教育についてまとめる。		
9	9. 入院治療と看護② 1)入院の目的と意味 治療的環境	講義	45分		
10	10. 入院治療と看護③ 1)安全を守る	講義			
11	11. 身体ケア① 1)精神科における身体のケア	講義			
12	12. 身体ケア② 1)身体合併症	講義	【事前学習】 ・各精神症状への関わりについてまとめる。		
13	13. 精神障害者が地域で暮らすむずかしさ 1)地域で生活するための原則、地域での看護の実際	講義	【事前学習】 ・統合失調症の看護についてまとめる。		
14	14. 精神障害をもつ患者の看護 : 統合失調症	グループワーク			
15	15. 精神障害をもつ患者の看護 : 気分障害、心身症	グループワーク			
16	終講試験		45分		
評価方法	筆記試験(100点)				
テキスト	専門分野Ⅱ 専門分野Ⅱ 別巻	精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 精神保健福祉	精神看護の基礎 精神看護の展開	医学書院 医学書院 医学書院	

専門分野Ⅱ：「精神看護学」

科目	単位	時間数	配当年次	学期	講師名		
精神看護学演習	1	30	2	2	院内講師(看護師)		
到達目標							
精神看護学概論、精神保健、精神臨床看護での学習を統合し、精神障害をもつ対象および家族の看護を考えることができる							
時	授業内容		方法	備考			
1	1. 精神看護における看護技術 1)ケアの前提 2)ケアの原則		講義	担当:院内講師			
2	3)ケアの方法(ペプロウの対人関係論含む)		講義				
3	4)関係をアセスメントする (1)プロセスレコードを用いたアセスメントの実際 (2)患者-看護師関係で起こること ・チームのダイナミクス		講義	【事後学習】 ・プロセスレコードを記述し、アプローチの方法・関係性について振り返る。 【事後学習】 ・患者-看護師関係の理解については、ペプロウの看護理論についてまとめ学習する。			
4			講義				
5	5)関係をアセスメントする (1)プロセスレコード		グループワーク 演習				
6							
7	6)患者-看護師関係成立の技術 コミュニケーション演習		講義 演習	担当:院内講師			
8	2. 精神障害をもつ対象へのかかわり		講義				
9	3. 統合失調症患者への関わり		講義				
10	4. 統合失調症患者の看護 1)陽性・陰性症状に対する看護 2)対人プロセスを通じた看護 3)服薬指導・環境調整 4)慢性期にある対象・家族への看護 5)幻覚・妄想のある対象の看護 6)引きこもり状態にある対象への看護 7)希死念慮のある対象へのかかわり 8)事例に対する患者-看護師関係		グループワーク 演習				
11							
12							
13						5. 家族への看護	
14	6. 統合失調症患者の事例検討 発表		発表			45分	
15							
16	終講試験					45分	
評価方法		筆記試験(100点)					
テキスト		専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎 医学書院 専門分野Ⅱ 精神看護学Ⅱ 精神看護の展開 医学書院 別巻 精神保健福祉 医学書院 自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード 日総研					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
成人回復期看護実習	2	90	2年次	後期	各実習担当者
到 達 目 標					
成人回復期にある対象の特徴を理解し、合併症予防・機能回復・社会復帰に向けた援助ができる。					
授 業 内 容					
<p>1. 成人回復期にある対象の特徴を理解することができる。</p> <p>1) 回復期にある対象の身体的側面が理解できる。</p> <p>2) 回復期にある対象の精神的側面が理解できる。</p> <p>3) 回復期にある対象の社会的側面が理解できる。</p> <p>2. 対象の障害受容の心理的プロセスを理解し、その段階に応じた援助ができる。</p> <p>1) 機能障害・形態の変化がある対象および家族の障害受容のプロセスが理解できる。</p> <p>2) 対象および家族の障害受容に応じた援助ができる。</p> <p>3. 対象の回復を促す援助ができる。</p> <p>1) 対象の回復状況が判断できる。</p> <p>2) 対象の回復状況に応じた日常生活拡大に向けた援助ができる。</p> <p>3) 活動範囲およびADL拡大に伴う二次障害を予防するための援助ができる。</p> <p>4) 実施した援助を客観的に振り返り、評価することができる。</p> <p>4. 社会復帰に向けた援助ができる。</p> <p>1) 退院後の生活に必要な指導を考えることができる。</p> <p>2) 対象に適応される社会資源について述べることができる。</p> <p>3) 対象を支援するための医療チームの連携を述べることができる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
成人慢性期看護実習	2	90	2年次	後期	各実習担当者
到 達 目 標					
成人慢性期にある対象の特徴を理解し、セルフケア確立に向けての援助ができる。					
授 業 内 容					
<p>1. 成人慢性期にある対象の特徴を理解することができる。</p> <p>1)慢性期にある対象の身体的側面が理解できる。</p> <p>2)慢性期にある対象の精神的側面が理解できる。</p> <p>3)慢性期にある対象の社会的側面が理解できる。</p> <p>2. 対象の自己管理行動に向けた援助ができる。</p> <p>1)対象の自己管理行動を促進および阻害する要因が理解できる。</p> <p>2)症状のコントロールに必要な援助ができる。</p> <p>3)対象の生活習慣や価値観を考慮した生活指導を考えることができる。</p> <p>4)実施した援助を客観的に振り返り、評価することができる。</p> <p>3. 社会復帰に向けた援助ができる。</p> <p>1)対象に適応される社会資源について考えることができる。</p> <p>2)対象を支援するための医療チームの連携が理解できる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
成人周手術期看護実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
周手術期にある対象の特徴を理解し、早期回復に向けた援助ができる。					
授 業 内 容					
<p>1. 成人周手術期にある対象の特徴を理解することができる。</p> <p>1) 対象の病態から手術療法の目的が理解できる。</p> <p>2) 手術や麻酔が対象の身体的側面に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>3) 手術療法が対象の精神的側面に与える影響が述べられる。</p> <p>4) 手術療法が対象の社会的側面に与える影響が述べられる。</p> <p>2. 対象が身体的・精神的・社会的にも良好な状態で手術に臨めるように援助ができる。</p> <p>1) 手術や麻酔による合併症を予防するための援助ができる。</p> <p>2) 術前の不安に対する援助ができる。</p> <p>3. 術中の経過と対象の状態の変化が理解できる。</p> <p>1) 手術室入室時から麻酔導入までの対象の心理的变化が理解でき、援助が実施できる。</p> <p>2) 手術や麻酔に伴う身体的影響と援助の意味について考えることができる。</p> <p>4. 術後回復を促進するための援助ができる。</p> <p>1) 回復過程に合わせた観察ができる。</p> <p>2) 疼痛緩和の援助ができる。</p> <p>3) 早期離床への援助ができる。</p> <p>5. 手術による身体的変化の受容・社会復帰に向けた援助が述べられる。</p> <p>1) 手術による形態・機能の変化が理解できる。</p> <p>2) 形態・機能の変化の受容過程が理解できる。</p> <p>3) 形態・機能の変化の受容段階に応じた援助が述べられる。</p> <p>4) 社会復帰にむけた生活指導の内容が述べられる。</p> <p>6. 周手術期における医療チームとの連携および継続看護について述べられる。</p> <p>1) 病棟と手術室との継続看護の実際が述べられる。</p> <p>2) 対象を支援するための医療チームの連携が述べられる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
老年生活援助実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
<p>老年期にある対象を生活機能の観点から理解し、対象に応じた援助ができる。</p>					
授 業 内 容					
<p>1. 老年期にある対象の特徴が理解できる。</p> <p>1) 対象の加齢・健康障害による変化が身体的側面から理解できる。</p> <p>2) 対象の加齢・健康障害による変化が精神的側面から理解できる。</p> <p>3) 対象の加齢・健康障害による変化が社会的側面から理解できる。</p> <p>4) 加齢による変化や健康障害が対象とその家族の生活に及ぼす影響を理解できる。</p> <p>2. 対象の自立に向けた日常生活援助ができる。</p> <p>1) 対象にとって安楽な生活環境を整えることができる。</p> <p>2) 対象の危険を予測した、安全を守るための援助が実施できる。</p> <p>3) 対象の持てる力を活かした日常生活援助が実施できる。</p> <p>3. 対象と家族の退院支援について考えることができる。</p> <p>1) 対象を取り巻く家族関係、サポート状況を述べるができる</p> <p>2) 対象・介護者を支援するための方法を述べるができる。</p> <p>4. 老人福祉について理解し、地域社会との関連を学ぶことができる。</p> <p>1) 老人福祉施設の機能と役割が理解できる。</p> <p>2) 老人福祉施設と地域との関連を述べるができる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
老年終末期看護実習	2	90	3年次	前期	各実習担当者
到 達 目 標					
<p>老年終末期にある対象の特徴を理解し、最期まで自分らしく生きられるよう援助ができる。</p>					
授 業 内 容					
<p>1. 老年終末期にある対象の特徴を理解できる。</p> <p>1) 終末期にある対象の身体的側面が理解できる。</p> <p>2) 終末期にある対象の精神的側面が理解できる。</p> <p>3) 終末期にある対象の社会的側面が理解できる。</p> <p>4) 対象とその家族の全人的苦痛が理解できる。</p> <p>2. 老年終末期にある対象の苦痛緩和への援助ができる。</p> <p>1) 体力の消耗を少なく、基本的ニードの充足に向けた援助が実施できる。</p> <p>2) 症状のコントロールに向けた援助が実施できる。</p> <p>3) 精神的苦痛を緩和するための援助が実施できる</p> <p>3. 老年終末期にある対象が最期まで自分らしく生きられるように援助ができる。</p> <p>1) 対象の役割・自己実現を考慮した援助を考えることができる。</p> <p>2) 対象個人の文化に配慮し、価値観や人生観を尊重した関わりができる</p> <p>4. 老年終末期にある対象の家族への支援の必要性が理解できる。</p> <p>1) 終末期の家族の心理を考えることができる。</p> <p>2) 対象の家族への支援の必要性を述べるることができる。</p> <p>5. 対象とその家族の看護を通して、自己の死生観を深めることができる。</p> <p>1) 対象とその家族の看護を通して、自己の死生観を述べるることができる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
小児看護学実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
小児各期の発達段階・健康状態にある対象とその家族を理解し、成長発達や健康の段階に応じた援助ができる。					
授 業 内 容					
<p>【保育所・幼稚園】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な小児期(乳幼児期)にある対象の成長・発達が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児各期にある子どもの成長・発達を一般的特徴と比較し説明できる。 2) 成長発達の個別性を月例差や児を取り巻く環境との関係から説明できる。 2. 乳幼児の成長発達にあわせた保育が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 乳幼児期各期の成長・発達に応じた基本的な生活習慣獲得のための支援が理解できる。 2) 乳幼児の成長・発達に応じた環境調整が理解できる。 <p>【健康障害のある小児】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ小児期の対象の特徴が理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の健康障害について理解できる。 2) 健康障害や入院が対象の成長・発達や日常生活に及ぼす影響が説明できる。 3) 健康障害や入院が家族に及ぼす影響が説明できる。 2. 健康障害をもつ小児期の対象の発達段階に応じた援助ができる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児各期にある対象に応じた症状緩和のための援助が説明できる。 2) 小児各期にある対象のバイタルサインが正確に測定できる。 3) 小児各期にある対象に応じた日常生活の援助ができる。 4) 対象に必要な検査・処置・治療に伴う援助ができる。 5) 小児の発達段階に応じた安全を守るための援助ができる。 6) 家族に対する援助の必要性を述べることができる。 					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学期	担 当 者
母性看護学実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
周産期における対象の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康の保持・増進のための援助ができる					
授 業 内 容					
<p>1. 周産期における対象(妊婦・産婦・褥婦・新生児)の身体的・精神的・社会的特徴を理解することができる</p> <p>1) 妊娠各期の妊婦(胎児)の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。</p> <p>2) 分娩各期の産婦(胎児)の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。</p> <p>3) 褥婦の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。</p> <p>4) 新生児の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。</p> <p>2. 正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護の必要性が理解できる。</p> <p>1) 妊娠期にある対象に必要な看護が理解できる。</p> <p>2) 分娩期にある対象に必要な看護が理解できる。</p> <p>3) 産褥期にある対象の進行性変化・退行性変化を促すために必要な援助が理解できる。</p> <p>4) 新生児の健康状態を観察し、日齢に応じた必要なケアが理解できる。</p> <p>3. 妊婦・褥婦および家族に対する保健指導について考えることができる。</p> <p>1) 妊娠期にある対象に必要な保健指導について述べるすることができる。</p> <p>2) 産褥期の対象の生活を考慮した保健指導について述べるすることができる。</p> <p>4. 母子相互作用および父親・母親役割を取得する過程が理解できる。</p> <p>1) 親役割を取得する過程を理解し、過程に応じた看護の必要性が理解できる。</p> <p>2) 母児相互作用を促進する関わりが理解できる。</p> <p>5. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護を通して、継続看護について理解できる。</p> <p>1) 外来と病棟の継続看護の実際が理解できる。</p> <p>2) 地域におけるサポート体制について述べるすることができる。</p> <p>6. 生命誕生と尊厳について自己の考えを述べることができる。</p> <p>1) 生命誕生が家族に与える影響について自己の考えを述べることができる。</p> <p>2) 生命の尊厳について自己の考えを述べることができる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					

【専門分野Ⅱ】

科 目	単 位	時間数	配当年次	学 期	担 当 者
精神看護学実習	2	90	3年次	前期・後期	各実習担当者
到 達 目 標					
こころの健康に問題をもつ対象を理解し、精神の健康保持・増進・回復過程に応じた援助ができる					
授 業 内 容					
<p>1. こころの健康に問題をもつ対象と家族について理解することができる。</p> <p>1) 対象の症状について理解できる。</p> <p>2) 対象の治療・検査が理解できる。</p> <p>3) 対象の症状が日常生活動作に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>4) 対象の症状が対人関係に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>5) 生活環境が対象に及ぼす影響が理解できる。</p> <p>2. 対象のセルフケアレベルを判断し、必要な援助を行うことができる。</p> <p>1) 対象のセルフケアレベルが判断できる。</p> <p>2) 対象のセルフケアレベルに応じた援助が実施できる。</p> <p>3. 対象との関わりを通して、関係構築のための技法を学ぶことができる。</p> <p>1) 患者－看護者関係を形成していく過程について理解できる。</p> <p>2) 対象との関わりを振り返り、対人関係構築に向けた自己の課題を明確にすることができる。</p> <p>4. 対象の安全や人権を守るための管理上の特徴が理解できる。</p> <p>1) 人権擁護のための管理が理解できる。</p> <p>2) 安全を守るための管理が理解できる。</p> <p>5. 精神医療におけるチーム医療と社会資源について述べられる。</p> <p>1) 対象を支援するための医療チームの役割が述べられる。</p> <p>2) 対象の社会復帰に必要な社会資源が述べられる。</p> <p>3) 精神障害者をめぐる社会の現状や課題が述べられる。</p>					
授業形態	実習				
評価方法	履修規程第6条、第12条、第13条、第14条に定めるとおりとする 観察、口頭、諸記録などを、評価表を用いて総合的に評価する				
その他					